



むかい

学校教育目標

- ・かしこく
- ・やさしく
- ・たくましく
- ・なかよく

「当たり前」を見つめ直す季節に

校長

日差しの中に少しずつ春の気配を感じる一方で、朝夕はまだ冷え込み、冬の厳しさが残っています。そんな中でも、校庭では寒さに負けず、元気に体を動かして遊ぶ子どもたちの姿が見られます。その姿に、心が温くなる思いがします。本年度も残り二か月足らずとなりました。子どもたちは、これまでの学習や学校生活を通して、多くの経験を積み重ねてきました。できるようになったこと、少しずつ自信をもてるようになったこと、そして、まだ課題として向き合っていることも含め、一人ひとりが確かな歩みを進めています。3学期は、一年のまとめであると同時に、次の学年へとつながる大切な時期です。今の自分を振り返りながら、次の一歩を考える時間を大切にしていきたいと思います。

さて、12月に6年生の国語の授業「12歳の主張」の中で、心に残る発表がありました。題名は「『当たり前』を『ありがとう』に」。毎日の食事や、先生から教えてもらうことを、つい「当たり前」と感じてしまっている自分に気付き、それが実は多くの人の思いや努力、愛情によって支えられていることに気付いたという内容でした。その中で語られていた、「当たり前だと思っていたことが、どれほどありがたいことだったのかに気付いた」という言葉は、とても率直で、私たち大人の心にも強く響くものでした。

私たちは日々の生活の中で、「当たり前」に慣れてしまい、感謝の気持ちを言葉にする機会を失いがちです。しかし、誰かの支えがあってこそ成り立っている毎日に目を向け、「ありがとう」と伝えることは、人と人との関係を温かくし、自分自身の心も豊かにしてくれます。子どもたちがこうした気付きを、自分の体験を通して言葉にできたことを、とても頼もしく感じました。

本校が進めている「個別最適な学び」も、子ども一人ひとりの思いやタイミングを大切にすることを基本としています。子どもが「やってみたい」「知りたい」と思ったその瞬間を逃さず、支え、励ましながら成長につなげていくことが、私たち大人の役割です。その中で、支え合うことへの感謝や、周囲への思いやりの気持ちも、自然と育まれていくものと考えています。本年度の締めくくりに向けて、教職員一同、子どもたち一人ひとりの思いに寄り添いながら、安心して次の学年へ進めるよう支援してまいります。ご家庭におかれましても、日々の小さな成長に目を向け、励ましの言葉をかけていただければ幸いです。寒さの中にも春の訪れを感じるこの時期、「当たり前」を見つめ直し、「ありがとう」があふれる毎日を、学校・家庭・地域が一体となって大切にしていきたいと思います。